

ひろか

だより

第391号

令和7年2月3日

発行

弘果

弘果 弘前中央青果株式会社

津軽の「うまい」がここにある

雪害対策に役立つ アイテムを多数用意 (取扱商品の一例)

お問い合わせは (株)弘果物流 電話0172-27-1800 まで

菌源炭

青果初市【そ菜部競売】



青果

野菜、国産果実、輸入果実の初市が午前6時30分より行われました。県内野菜は「ほうれん草」「小松菜」「春菊」「せり」などの葉物や、「生椎茸」「牛蒡」等、県外野菜は「大根」「白菜」「キャベツ」の大型野菜や葉物類が取引されました。各品目ともに、12月の干ばつと低温の影響により、各産

地の出荷量が少なく、平年を上回る単価で取引されました。初市後は、引き続き全国的に出回り量が少なく、数量減の単価高で推移しています。県内果実は「スチューベン」「田舎館いちご」「ラ・フランス」「シャインマスカット」の入荷、県外果実は栃木県産をはじめとする「いちご」と静岡県産中心の「みかん」の入荷と

は、県内、県外産ともに、育苗期の高温の影響から、生育不良や病害虫の発生により、植え直しによる遅れから入荷減となりました。また、各産地の「みかん」においても、高温によるヤケ果やカラムシ被害により、当初の見込みより数量が大幅に減少し、単価高での取引となっております。

は、県内、県外産ともに、育苗期の高温の影響から、生育不良や病害虫の発生により、植え直しによる遅れから入荷減となりました。また、各産地の「みかん」においても、高温によるヤケ果やカラムシ被害により、当初の見込みより数量が大幅に減少し、単価高での取引となっております。



花き初市

受注の少ない厳しい状況となりました。花き業界では、年間を通じて一月は閑散期ですが、季節を先取りした春を感じさせる「チューリップ」「フリージア」等の球根花や「サクラ」等の花木類の入荷を強化し、今後の取引につなげていきます。



餅つき



纏振り

係者が多数来場し賑わい、競売前のセレモニーでは、消防団による纏振りや鏡開き、餅つき、汁粉、雑煮の振る舞い等が行われ、新春のめいたい雰囲気の中、令和7年の取引が幕開けしました。



りんご初市

この日の競売では「サ



津軽りんご市場初市

この日の競売では「サ

令和7年 初市

弘果、津軽りんご市場において1月5日、令和7年初市が行われました。各市場とも、生産者、買参人、関係者が多数来場し賑わい、競売前のセレモニーでは、消防団による纏振りや鏡開き、餅つき、汁粉、雑煮の振る舞い等が行われ、新春のめいたい雰囲気の中、令和7年の取引が幕開けしました。

りんご

午前8時より行われたりんご初市には、7150箱(前年比52.9%)が上場され、生産者約600人、買参人約200人が来場しました。

この日の競売では「サ

津軽市場

午前8時より行われた津軽りんご市場初市には、2853箱(前年比48.6%)が上場され、生産者約450人、買参人約70人が来場しました。

この日の競売では「サ

値9720円(前年比100.0%)、安値8640円(同114.3%)となりました。

齋藤彰寿取締役部長は初市の取引と今後の見通しについて「生産者の手持ち在庫が少ないことに加え、年末からの大雪の影響で、選果や出荷が出来なかったことが、初市の入荷数量が少な

初市の入荷数量が少な

コンフューザーRの設置拡大をお願いいたします

令和6年産りんごも高値での取引が続いていますが、その要因の一つに海外輸出の好調が挙げられます。その輸出先の約7割を占めているのが台湾です。台湾での検疫で1度でもモモンシクイガが発見されれば、台湾への青森県のりんご等全品目の輸出はストップしてしまいます。また、今後、使用できる殺虫剤の減少や、薬剤に対する害虫の抵抗性発達により、化学薬剤防除だけでは防除しきれないことが予想されます。

そこで、コンフューザーRを設置し、園地内の害虫密度を減らしていくことが重要になります。弘果総研では、15年前からコンフューザーRを設置した園地と設置していない園地において、対象害虫の捕獲数について調査を行ってきました。結果はコンフューザーRを設置した園地が設置していない園地に比べ約10分の1以下の捕獲数となり、確実な効果が認められています。

是非、できるだけ多くの方にコンフューザーRを設置していただき、おいしく安全安心なりんごを消費者に届けましょう。

弘果物流では、2月20日までコンフューザーRの注文を承っておりますので、まだ準備されていない方はお急ぎ願います。

「農」の「業」を継ぐ

期待の後継者



【園地所在地】板柳町三千石他
 【作付状況】りんご・2.5畝
 【就農年】2022年
 【きっかけ】学生時代は水泳選手を志し、高校、大学と水泳の強豪校に進み競技に没頭していましたが、大学卒業後は帰郷し、青森県内のスイミングスクールでコーチを務めていました。そのような生活の中でも仕事が休みの日は、家業の手伝いを積極的に行っていました。意識が変化するきっかけは、手伝

富士 耕平さん (38)

家業である「農業」に希望を見出し、夢に向け努力する期待の後継者を紹介します。

程度でしたが愛着があり、家業のこれからのことを考えた際、還暦を過ぎた両親が、これから何十年も園地を維持していくことは年齢的に困難だと思つたことでした。それならば、両親が現役最前線で働いているうちに教を請い、継承していくことが最善であると結論を出しました。様々な葛藤がありました。両親や妻と話し合い意志を固め、本格的に就農しました。

【現在】「理論と実践」とはよく言われることで、会社員時代に漠然と行っていた家業の手伝いでは理解に乏しかった部分を補完するため、板柳町の青年農業者研修「林檎まるかじり塾」を受講しました。剪定、栽培管理、農業経営等多岐に渡る研修を行い、自園地の作業とリンクすることで、より一層理解が深まりました。また、日々一緒に仕事をする両親のやり方を踏襲し、研修で得たものや、自分の気付いたことをプラスして、自身の農業スタイル構築に向けて励んでいます。現代はネット社会で調べれば何でも出てきますが、実践してみなければ得られないことも多く、情報先行ではなく、経験の積み重ねで自分をアップデート(更新)しています。

【夢・展望】家業の維持、発展を考えていく上で根本となることは、りんごの商性は「食味」にあり、常に「うまい」りんごを生産し続けることだと考えています。りんごの商品性を高めていくために日々経験を積み、栽培技術の向上を図ることは勿論、より効率的な生産を目指し、現在注目されている「高密度栽培」や、省力化に向けた機械、IT技術の導入等、りんご栽培において先駆的な事例を参考に、「うまい」りんご生産継続を目標に進んでいきたいです。

【座右の銘】「もう限界だ」と思っているところよりも、本当の限界は先にあり、それほど伸びばいけないのだと確信している。オリンピックでのメダル獲得等、日本の水泳界をけん引してきた入江陵介氏の言葉です。競技、指導で水泳に携わってきた実体験を踏まえ、この言葉に出会い感銘を受けました。今までもあらゆる場面で、全力の努力を続けた結果「もうこれ以上できない」と思うことがあっても、それが終わった後は、自分の限界を自ら設定していたことに気付くことができました。限界は絶対的な限界ではなく、その時々で変化するものであり、努力によっていつでも更新できると考えます。これからも、自分との戦いで限界突破して乗り切っていきたいです。

青森県平川市産 松田さん家のいちご



品質・食味への妥協を許さずネクストジェネレーション(次世代)へつなぐ

平川市でいちご等を生産する「ネクストジェネレーションファーム」(松田清教代表)では冬いちごの栽培に取り組み、「松田さん家のいちご」というブランドで、主に弘果へ出荷しています。同ブランドの品種は「よつぼし」「おいCベリー」と、東北地方では同社のみが栽培している「貴婦人の微笑み」で構成され、ピークを迎えている現在、収穫作業の最中です。

同社は、いちごの高設栽培に取り組んでおり、品種ごとの肥料の調整が難しい面がありますが、栽培管理や収穫時の足腰への負担が軽く、作業性が良く、効率的に仕事を進めたいという思いで、いちごの品質、食味へのこだわりも強く、出荷する全ての商品に対して妥協を許しません。松田代表は「我々は数多くのいちごを収穫し、商品として出荷、販売していますが、消費者の方には、みれば、購入した「松田さん家のいちご」がオンラインワンであり、それが評価につながるため、出荷の際は、

品質が常に当社基準100%を満たすことで、ブランドの維持に努めています」と話していました。

松田代表は今後について「現在栽培しているいちご、りんご、シャインマスカットの他、各品目、品種をプラスして、農業の通年・複合経営を目指しています。社名にもある通り「次世代」を見据えて、農業経営モデルを確立していきたい」と意気込み、展望していました。



同社のこだわりが詰まったいちご「よつぼし」を、農業経営モデルを確立していきたい」と意気込み、展望していました。



2024-2025 シーズンニュース

弘果SRC(スキーレーシングクラブ)の土屋正恵選手、横濱汐莉選手が、大鰐町の大鰐温泉スキー場青森あじやらクロスカントリーコースで行われた青森県スキー選手権大会へ出場しました。1月15日の5キロラシカル競技では、土屋選手が2周目途中で転倒し、横濱選手に一時先頭を譲るも、そこから巻き返しを見せ、成年Bを制し3連覇を達成。横濱選手が15秒差で続き、2位となりました。総合成績でも、1位土屋選手、2位横濱選手と弘果SRCで上位を固め、3位以下に大きな差をつける圧巻のレース展開となりました。

16日の10キロフリー競技では、土屋選手が日本トップクラスの實力を見せつけ優勝し、クラシカルとの2冠を達成。横濱選手は2位につけ、クラシカルに続き、弘果SRCで上位を固めました。

大会では両日とも、弘果から応援団が駆け付けました。コース各所で声援を送り、選手の活躍を後押ししました。フィニッシュの瞬間は、歓喜の拍手が湧き上がりました。



快足する土屋正恵選手(左)横濱汐莉選手(右)

りんご無冷蔵品等 早期出荷のお願い

弘果りんご部、津軽りんご市場では、「冷蔵品」「無冷蔵品」を区分けして販売しています。

消費者の皆様へ鮮度の良いりんごをお届けするため、特に無冷蔵品は、早めの出荷をお願いいたします。

園地・ハウスの雪害対策をお願いいたします

今年積雪が多く、すでに一部の園地ではりんごの枝折れ等の被害が確認されています。今後も引き続き気象情報に留意するとともに、左記の対策に努めてください。

☆雪が新しく軽いうちに、樹上の雪下ろしを行います。

☆雪に埋もれた枝を振り上げるか、枝先を抜き上げ、その下の雪を踏み固めましょう。なお、雪に埋まった枝の掘り上げが困難な場合は、下枝周辺を溝切りするかスコップで雪に切れ込みを入れ、沈降力の軽減に努めましょう。

☆剪定で除去する見込みの枝が雪中に埋もれている場合は、早めに切り取り、塗布剤を塗るなどして切り口を保護しましょう。

☆晴天が続く日を選んで融雪促進剤を散布しましょう。

☆野ネズミによる被害を防ぐため、幹の周りの雪を踏み固めましょう。食害が見られた場合は、被害の程度に応じて塗布剤を塗りましょう。

☆ハウスの雪下ろしや周囲の除雪を行い、ハウスへの被害を最小限にしましょう。

弘果物流では、雪害対策に役立つアイテムを多数用意しております。詳細は弘果物流にお問い合わせください。



応援に駆け付けた弘果応援団と選手たち

大会結果

1月15日(水)	女子5キロラシカル	成年B 1位 総合1位
	土屋	15分2秒5
	成年B 2位(総合2位)	横濱
	15分17秒5	
1月16日(木)	女子10キロフリー	1位 土屋
		25分28秒4
	2位 横濱	26分57秒7

走り切れました。行けるところまで食らいついていきたいです」と熱意を見せました。

今後は、国民スポーツ大会や全日本スキー選手権大会への出場を予定しており、活躍が期待されます。